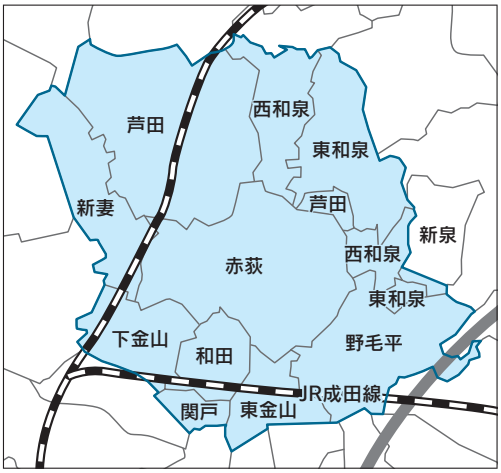
ふるさとの歩み 第4回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。

中郷村　周辺に先駆けた医療体制の充実



現在の赤荻保育園の隣接地にあった中郷村役場（「成田の歴史アルバム」より）

村の設立と産業

中郷村は明治22(1889)年、野毛平村・下金山村・和田村・関戸村・赤荻村・新妻村・芦田村・東和泉村・西和泉村・東金山村の10カ村が合併することで誕生しました。合併後、村役場は赤荻に置かれましたが、明治41(1908)年には新庁舎が字「穂ノ作」に建設されています。産業は農業が中心で、副業の養蚕業は野毛平・下金山で盛んであり、村内で二つの養蚕組合(繭の生産・流通の過程で共同作業を行う組合)が設立されていました。また、新妻では農閑期の婦女子の内職として藁筵(わらむしろ)の製作が行われていました。「千葉県印旛郡誌」によれば、村内では吉岡七郎兵衛が小山牧場を経営し、明治35(1902)年頃を境に搾乳業を専業とするようになるなど、牛乳の生産も盛んであったようです。

充実した医療拠点を目指して

中郷村では、昭和18(1943)年から国民健康保険制度が導入されており、昭和25(1950)年に国保直営の中郷診療所が開設されました。診療科目は内科一般と小児科で、医師・看護婦・国保主任が業務に当たっていました。診療所には医師住宅がなく、機材なども十分でなかったため、村民から、より充実した診療体制への要求が高まり、村議会では「医師住宅設置の件」が昭和26(1951)年に議決されています。さらにエックス線室、検査室の設置も決まり、既存家屋の改修では対応できなかったことから、家屋の増築が決定。隣接する中学校の実習田の一部を埋め立て、下金山にあった日暮与一村長宅の離れを移築する形で増築工事が行われました。政府が国民健康保険の普及を推進していた当時、同村のこうした取り組みは、国保未実施であった周辺自治体への波及効果も期待されていたようです。

村民の医療拠点となっていた、国保直営の中郷診療所（「歳月の忘れもの」より）

編集後記

9月15日号の特集は「年に一度は体のチェック」。職場の集団検診をやめて、人間ドックに行き始めて11年。この受診料がチョット高い。でも、健康な生活の必要経費と考えれば…安くないですよね。今年は多少なりとも運動を始めた成果が出たのか、数値は横ばい。医療費の高騰が問題になっている中で、病気にならないことを目的とする予防医学が見直されています。「早期発見・早期治療」だけでなく、自分自身が今どんな状態にあるのかを客観的に認識し、病気になる前に対策を取ることも必要ですよね。

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成23年9月15日号 No.1203　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成23年9月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課
〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話0476-22-1111（大代表）

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす紙を使用しています。

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。